

元な報かづえ

42年1月号

【第56号】

発行所

編集発行人

大分県・日田・中津江村

川津一人

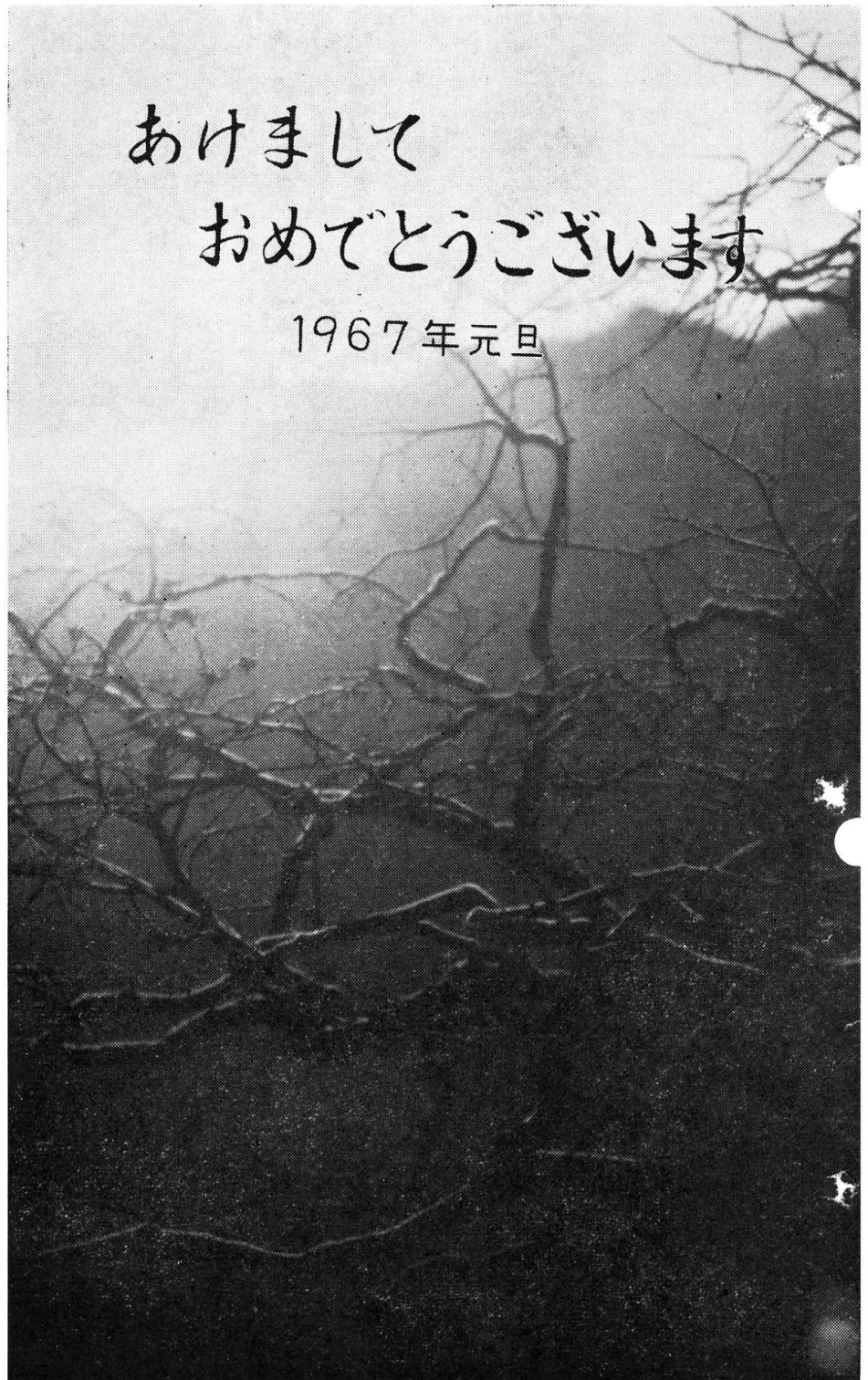
一月

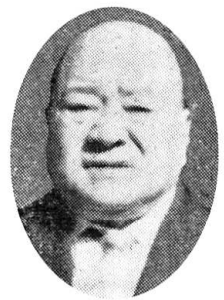
1月のことを陰暦では「むつき」と云う。

これは年の初めにお互いがむつみ合うことから起ったといわれている。

24節気で1月6日は小寒（寒の入り）で寒さが段々ときびしくなり、21日の大寒をすぎ、節分を迎えることとなりますがこの間を「寒中」といいます

寒参り、寒行、寒げいこなどは、この期間に行なわれる宗教的な行事でもあり、また身心、技芸の鍛練を目的としたもので昔から日本人独特の考え方で、外国人にはあまりみられない現象だそうです





村長 務 塔 児

年頭にあたりて

村民の皆さん、明けましておめでとうございます。昨年は天候に恵まれ、有史以来の大豊作で農家の方は勿論、村内全部が明るいお正月を迎えられたことと思います。

豊かな村づくりを目指して実施しております振興基本計画と林業構造改善事業も村民各位の絶大なる御協力と御理解によって、着々その成果を挙げてまいりましたし、ダム建設後の立村計画として要望しております道路網の整備事業等も、関係方面の御配慮によって実現されつつありますことはまことに喜ばしいことでもあります。

ダムは題発生以来、長い間の懸案でありました、枳

小学生諸君から老人クラブのかたがたまでの参加を得て盛大に実施できまして、まことに意を強くいたしました。

また、紙上はなはだ恐縮でございますが、私は昨年秋の叙勲におきまして、自治功労者の故をもって勲五等双光旭日章を授与されました、かかる榮譽を担い

ましたことは全く村民の皆さま方の御支援助の賜でありまして、有り難さに感涙しているものであります。

昭和四十二年は前年から改善事業の計画も樹立しながら、新しく農業構造

また、紙上はなはだ恐縮でございますが、私は昨年秋の叙勲におきまして、自治功労者の故をもって勲五等双光旭日章を授与されました、かかる榮譽を担い

ましたことは全く村民の皆さま方の御支援助の賜でありまして、有り難さに感涙しているものであります。

昭和四十二年は前年から改善事業の計画も樹立しながら、新しく農業構造

また、紙上はなはだ恐縮でございますが、私は昨年秋の叙勲におきまして、自治功労者の故をもって勲五等双光旭日章を授与されました、かかる榮譽を担い

新年のごあいさつ



村議会議長 矢原 金吾

明けまして、おめでとうございます。村民各位におかれましては、御元気にて御多幸な新年をお迎えのことと存じます。

しかしながら、皆さま方の御支援助と御協力を、いただきましては、種々と抱負

た、我々中津江村は当初の立村基本計画に基き、着々とその実現の一途をたどりつつあることは、誠に慶賀の次第でございます。

各位におかれましては、なにとぞ倍旧の御指導御鞭撻御協力を賜りますようお願い申し上げます。

反面ダム建設により、村内の人口は減少し、また建設省からの公共補償の実現や国有林払下げ要求についても遅々として進まないことは誠に残念に存じます。

私達も議員に選任されまして、最後の新年を迎え、残り期間も甚だしく短かいのであります。今までの体得したいろいろのことを資料と致しまして、村の執行機関と協力、村政全般にわたり内容充実に最後の努力を集中する決意でございます。

感 寸 頭 年



教 育 長
長谷部 秀 丸

新しい年の始め 目をみはるばかりの科学にあたって、村民の皆さんと共に考へてみたいことはあるべき日本の教育のめあてについてであります。

戦後もすでに二十一年、すべての面において日本は今、真剣な反省期に立たされておられ、教育界も、また根本的にその問いの前におかれています。

われまず。

戦後の日本の指導理念としてうたわれた民主主義はヤレ自由の尊重、ヤレ基本的人権と、上つつらの言葉だけがムード的にハンランして、言葉の正しい意味すら理解されずにきたのではないでしようか。

民主主義や、自由の思想は、人類の近代化の歴史を創造してきた、きびしい自律の精神に立つものでありなにおいても、精神的な覚醒が真つ先きになされなければならなかつたのであります。制度や組織よりもこの自主創造の精神を確立することが、はるかに重大な問題であつたのです。

この精神革命を通過しないまま、安易な模倣に流れてきたところに、今日の日本の不幸があると思ひます。

今日の教育の課題は、日本人の、この精神の貧困を克服することに方向性を与え、覚醒の人間の形成を目指す。

教育は、目先きの実用や功利のために受けとめるべきものではなく、意欲し、創造し、建設する人間を育てることが、教育の最終の目標であると信じます。

編 集 室

××

先づ児塔村長の勲五等双光旭日章の叙勲を、村民の皆さんとともにお祝いしたい。

××

この原稿を書いているのは、村報の編集を終つた二月の二十三日であるが、これが皆さんに配られた頃には、国会はすでに解散されて、当事者たちは、暮れも正月もないあわたたしさであろう。

××

選挙のときだけ目の色をかえて、口先だけで立派

なことをいうだけでは、国民はもう信用しなくなつてきている。

近代政治の根本とは何であらうか。東大の篠原一教授は

「近代政治の根本は、社会の要求を政治家がうけてめて、政策に転化するところにある。このようにして政治家と民衆の対話がなりたつ」といっている。

こんにちの政治腐敗は、国民と政治の間に対話どころか、異邦人のように言葉が通じないところにある。

明けましておめでとうから村民の対話をはじめたい

て下さるよう声を大にして訴えたいのです。

繁栄に一致団結して、協力を描しまないのです。

事がないので、村を去るよりほかに手がないのです。

村 民 の こ え

公務員や村の職員の方々、こんな悩みを持つたことはありますまい。私たちのような建築業や左官、その他菓子製造業、商店の部に属する者は私と同じ悩みを持つていると思ひます。

村全体の発展であり、住みよい村にするには、村民みんなが、豊かにならなければならぬと思ひます。金持ちや強い者は、弱い者、苦しいものに手をかけて引き上げてくれてこそ、私たちが、心から村の建設に、

村民の一部の人が生活がでなくなり夜逃げをしななければならぬようになつたり、村に魅力を失つた若い人たちが、村を離れることは、さびしいことです。

若い人を、いろいろな形で使いたい、養成したいと思つても、村に受け入れ体制ができていないと、する仕

謹 賀 新 年

村 議 会 議 員 一 同

助 役 川 津 一 冬

収 入 役 高 山 鶴 吉

第3回定例村議会

第三回定例村議会が十二月十七日招集され、午前十時中津江村役場会議室で執行部提案の議案三件、議員提案の議案一件を審議いづれも原案通り可決した。

可決された議案は税条例の一部改正、第四回一般会計補正予算で一、五二六千円が追加され、本年度一般会計の総予算額は一六三、二四〇千円と益々大型化してきている。

また四十年年度の決算書の認定で一般会計の才入一七六、八五三千元、才出一七一、七七二千元で決算されている。

一、五二六千円を追加 村税条例の一部改正など

▼中津江村税条例の一部改正
正について。
昭和四十年才入才出決算書の認定について。
▼昭和四十一年度中津江村一般会計補正予算(第四号)
▼全国鉾山所在市町村議長

正 賀
同 一 員 職 場 役
同 一 員 職 協 農
同 一 員 職 組 合 森 林

会加盟について。

この定例村議会に提案された議案の内昭和四十年年度の決算書の認定にあたり、執行部から、主要な事業の成果について次のような報告があった。

▼一般会計の才入

一般会計における才入については、総額一七六、八五三千元で、この才入に対して、一般会計の才出は、松原、下笠両ダム建設後の総合的村づくりのために策定された、振興基本計画の実施第二年度にあたっており昭和三十九年度に続いてその基本計画の線にそい、農林業の振興、産業基盤の整備、文教施設の整備等村

政推進の諸施策を重点的かつ計画性を以て具体化する
こととし、更に新たに林業構造改善事業を実施した。
この外主要地方道(県道

改良の促進、鯛生保育園の改築をした。これらの事業実施に当っては、財政的

にあるいは、その他の事情

において、幾多の困難な問題に遭遇したが幸い議会および村民各位の御協力によって、計画したすべての事業が所期の目的に達する

とができ、村政の発展に効果があったと思われる。

▼昭和四十年年度に実施した 主な事業

- (1) 総務部門
・ 消防ポンプ運搬車 一台

- ・ 消防ポンプ 二台
- ・ 宅地 九六坪(買入)
- ・ 建物(住宅) 一棟
- ・ 財政調整基金積立
- (2) 農林水産部門
- ・ 農業生産基盤造成基金
- ・ 冷害被害農家助成
- ・ 野田地区水路新設

- (3) 林業構造改善事業
- ・ 猪野々線開設事業
- ・ 田ノ口線開設事業
- ・ わさび田新設事業
- ・ 入会林野整備事業
- (4) 土木部門
- ・ 山本、宮園線改良
- ・ 不動野橋改良
- ・ 野田、田ノ口線開設
- ・ 八女、小国線(県道)改良

- ・ 栃原地区宅地造成事業

- (5) 民生部門
- ・ 鯛生保育所建設事業
- (6) 教育部門
- ・ 丸小教員住宅建築工事
- ・ 鯛中便所新築工事

以上が一般会計の才出のうち主な事業で総才出中投資的経費が約五〇%の割合となっている。

やけくその記

何でもいいからとにかく書け、というので何とか書けるだろう、と思って引きうけたが、原稿用紙を前にするとサッパリ書けない。新聞を見て商売とはいいな

うカタ苦しい事は書きたくない、お説教めいたことはサラに御用でない、かとい

な、と思う。新年そうそ

なってしまった。さて、スクラップブックをパラパラとめくってみると新聞一面のトップにデカデカと写真と共に津江の記事が出ている。いわく々蜂ノ巣トリデッ落ちる。「警

蜂ノ巣城も下笠部落もあらからすっかり変わってしまった。新らしい道路が出来、水没予定地の部落はもう無人になったところがほとんどだ